

授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学 終了報告書

所属(本学)	環境・社会理工学院 融合理工学系 地球環境共創コース		
現在の学年	修士 1 年		
留学先国	スイス	留学先大学	スイス連邦工科大学チューリッヒ校
留学期間	2017 年 8 月 28 日～2018 年 2 月 18 日		

①留学先大学(機関)の概略

スイス連邦工科大学チューリッヒ校 (Swiss Federal Institute of Technology Zurich, Eidgenössische Technische Hochschule Zürich, ETH Zürich, ETHZ) は、スイス連邦のチューリッヒ市にある、スイス連邦経済・教育・研究省配下の公立大学(Hochschule)です。自然科学と工学を対象とした工科大学であり、1855年に創設され、これまでに21名のノーベル賞受賞者を輩出しています。スイス連邦工科大学チューリッヒ校(以下、ETH)は Times Higher Education による World University Rankings では英語圏以外の大学では最上位となる10位にランクインするなど世界中から高い評価を得ている大学です。キャンパスはチューリッヒ市の中心部にあり、ETHのキャンパスのすぐ隣には同じく世界から高い評価を受けている総合大学であるチューリッヒ大学があります。(wikipediaを参照)

②留学前の準備

留学先大学の情報に関しては留学先大学のホームページを参照に収集しました。ETHは交換留学生が非常に多い大学なのでホームページの情報も非常に充実していて、応募の際にも特に不便を感じることはありませんでした。その他にも、東工大のホームページにある留学体験記を読んだり、実際にETHに留学していた経験がある先輩から話を聞くなどして情報収集を行いました。

語学に関しては東工大の図書館にある参考書を利用して英語の語学試験の勉強を行いました。東工大の図書館は語学試験の参考書も充実しているので、スピーキング以外に関しては、これらの参考書を利用すれば十分だと思います。

留学先の住居に関しては交換留学の申し込み後にETHと提携している寮を斡旋する組織から連絡があり、それに従って申し込みました。また、VISAの取得の必要はありませんでした。

③留学中の勉学・研究

ETHでの授業はどの授業も活気があり、興味深いものが多かったです。大学院の授業を受講していたので、序盤で学部生レベルの基本的な内容を確認した後、中盤、終盤で発展的な内容を学習するタイプの授業が多かったです。授業で学習した内容をヨーロッパにおけるケーススタディに応用することが授業内容に組み込まれている授業も多かったです。また、こういったケーススタディが課題の内容になることも多かったです。日本出身の身としてはこういったスイスやヨーロッパを題材にしたケーススタディは非常に新鮮で楽しかったです。一方で、課題の際は現地の学生と比較して課題のバックグラウンドを知らないことが多く苦労しましたが、苦労しながらも課題をこなす中で自分の知見が広げられたと思います。

④留学中に行った勉学・研究以外の活動

休日を利用してヨーロッパ各地を中心に旅行しました。観光以外にもサッカー観戦やアルプスでのハイキングやスノーボードを楽しみました。また、運動不足に陥らないために平日はジムに行くようにしていました。ETHのジムは学生なら無料で利用することができ、清潔感があり設備も充実していて非常に良かったです。

現地のスイス人と一緒にバーやクラブでお酒を飲んだり遊園地に行ったりしました。また、日本食パーティーやスイス料理パーティーを通して、チーズを利用したスイス料理等を楽しみました。スイス人以外の現地の学生とは主に寮が一緒になった学生と旅行に行ったり、寮でパーティーをするなどして交流しました。

⑤留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

留学中の授業や他の学生との交流を通して、これからも海外で何かにチャレンジする機会があれば積極的にチャレンジし、多くのことを経験したいという気持ちが今まで以上に強くなりました。また、スイスの治安が良く暮らしやすかったことにも由来していますが、半年間の交換留学を終えて、将来は1年以上、数年単位での海外滞在を経験してみたいとも思うようになりました。留学に行く前は海外やグローバルといった言葉に漠然とした興味はあったものの、実際の海外での長期滞在がどのようなものなのかはなかなかイメージ出来ていなかったのも、留学を通して上記で述べたような思いを抱くようになったことは自分の中の大きな変化だと思えます。

日々の暮らしに関して言えば、ジムに通うようになったことや、自炊する機会が増えたことで食材に気を遣うようになったことが相まって日本にいるときと比較して健康的な生活を送ることが出来たと思います。結果として留学中に風邪を引くことはありませんでした。これらのことは必ずしも留学の成果と言えるかは分かりませんが、自炊や運動といった留学中に身についた習慣は日本でも継続していきたいです。自炊やジムに時間を割くようになったことで自分の中の1日、1週間の時間の過ごし方に対する意識も変化したと思います。

⑥留学費用

渡航費

フライトの往路と復路を別々で取ったこと、予約するのがフライトの直前に近くなってしまったこともあり、往復で14万程度と、往路復路共に直行便では無かったが他のチューリヒに留学している学生より割高となってしまった。

住居費

当時の為替レートで月6万円前半でした。チューリヒの物価や他の寮に住んでいる友人の話を聞く限り妥当な金額だったと思います。

保険料

東工大指定の保険に加入し、保険料及び危機管理費合計で総額6万8千円程度でした。

⑦留学先での住居

②留学前の準備の項で述べた通り、案内に従って申し込みました。自室が与えられ、シャワー、キッチン、トイレを他の学生とシェアするタイプの一般的な学生寮でした。ラウンジがあり夜は賑やかで他の学生と交流でき楽しかったです。また、清掃業者が入っていたのでトイレや廊下を自分で掃除する必要なく清潔に保たれていた点も良かったです。立地に関しても鉄道、トラム(路面電車)共に利用でき、チューリヒ中央駅まで15分程度、大学まで20分程度と悪くない立地でした。以上のことから寮に関しては満足しています。

⑧留学先での語学状況

チューリヒはドイツ語圏ですが街中の人は英語に堪能なので、ドイツ語が出来なくても生活に師匠はありませんでした。ただ、ドイツ語が堪能であった方が現地のスイス人と交流する際有利になると思います。

⑨就職活動

今後日本で行う予定です。

⑩留学を希望する後輩へアドバイス

留学に興味がある方は積極的にチャレンジしてみると良いです。早い段階から情報を集めることが大切だと思います。